

4 事業の評価

評価基準					
[妥当性]事業のニーズはあるか		増加している	○	横ばい	減少している
[妥当性]事業手段は妥当か	○	現行の手段でよい		一部見直しが必要	見直しが必要
[妥当性]官民の役割は妥当か	○	市が行うべき		他の主体との協働も可能	市が行う必要性は薄れている
[妥当性]緊急的に取り組む必要はあるか		急いで取り組む	○	中長期的に取り組む	緊急性は薄い
[有効性]更に効果が期待できるか		できる	○	あまりできない	できない
[有効性]成果目標はどの程度達成しているか	○	達成している (90%以上)		おおむね達成 (70~90%未満)	達成していない (70%未満)
[有効性]上位施策への貢献度	○	重要かつ高い貢献度がある		一定の貢献度がある	貢献度は低い
[効率性]事業費を抑制できるか		できない	○	制約はあるが可能性はある	できる
[効率性]受益者負担の見直し		適正	○	負担は求められない	見直しが必要

5 今後の方向性 (担当課評価)

事業内容の方向性	充実			○	
	現状維持				
	縮小				
	廃止				
		ゼロ	縮小	現状維持	拡大
コスト投入の方向性					

担当課評価の根拠	各種体育大会を開催することで、児童や生徒の健全育成や、他校児童、生徒との親睦や交流が図れることから、引き続き事業を継続し、生涯にわたり体育スポーツに親しむ基礎を培うことで、健康で豊かな学校生活を送ることができます。また、子どもの体力が低下傾向にあることから、体力向上に向けた取組みとして、パワーアップチャレンジ手帳を活用し、自分自身が体力テストの結果を意識することで、体育・スポーツに対し、真剣に取り組む姿勢が身に付く。
見直し・改善内容	事業を最優先事項と捉え、各種競技大会などを開催する中で、小・中学校の児童や生徒の健全な育成が、より一層図れるように改善していく。